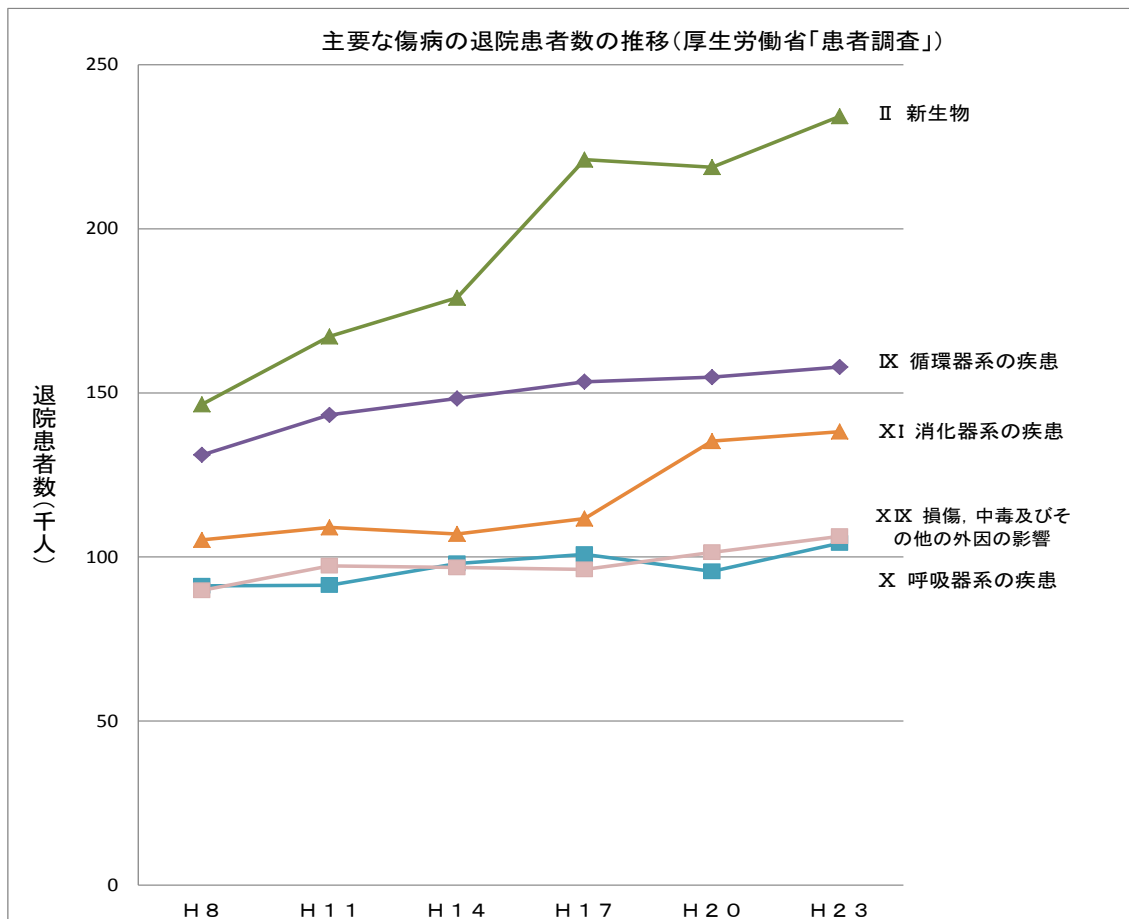


## 第4章 医療需要の将来推計

### 1 傷病分類別患者数の動向

患者調査における平成8年から23年の全国の傷病分類別退院患者数をみると、新生物、循環器系の疾患、消化器系の疾患が増加傾向を示しており、今後もそのような傾向が続くと想定されます。



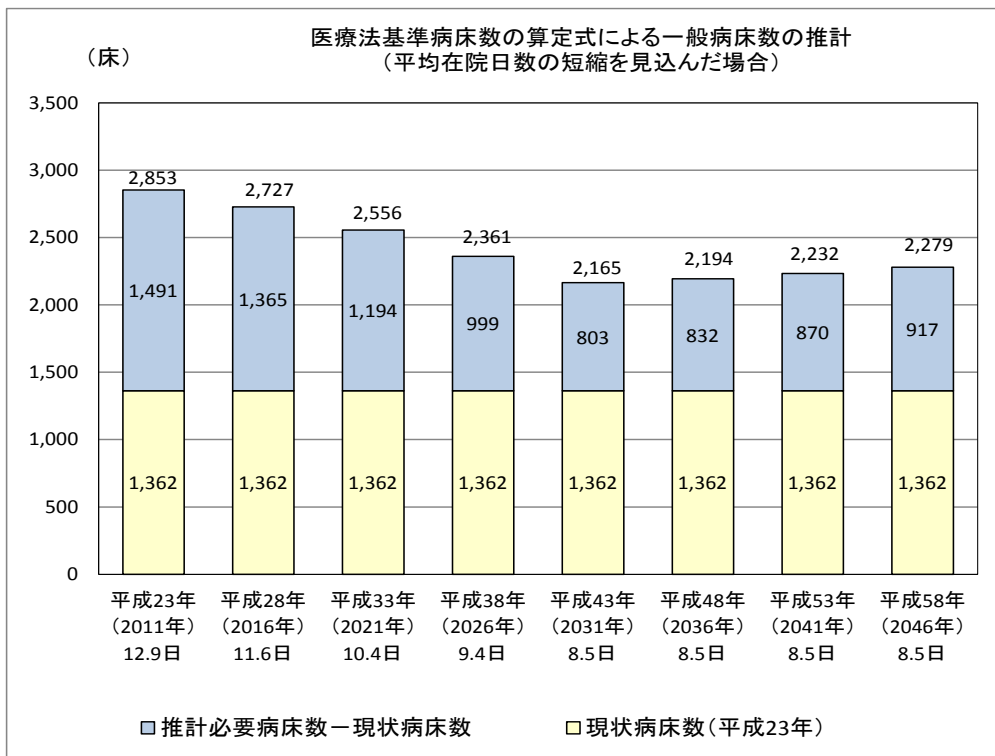
注: 患者数は各年9月の患者数  
出典: 厚生労働省「患者調査」

### 2 病床数の推計

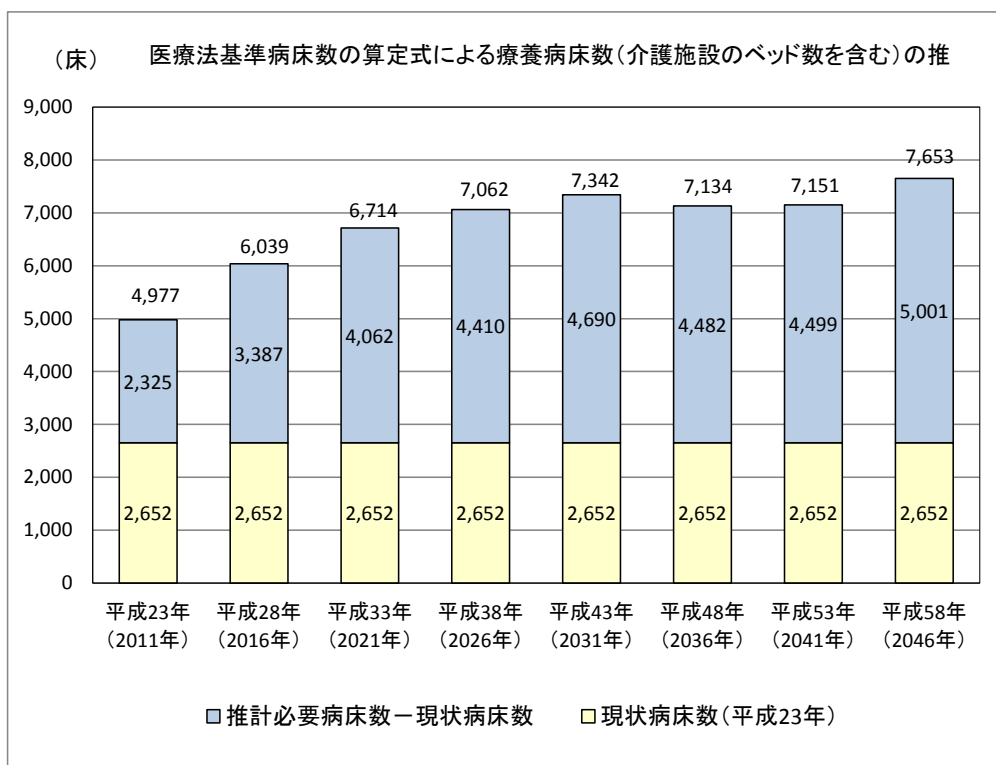
医療計画における基準病床数<sup>40</sup>の算定式で流入・流出を考慮しない場合の推計値を、潜在的な需要と考え、将来推計患者数を求めると次のようになります。

一般病床の対象患者数は高齢化の進展により増加しますが、平均在院日数の短縮を見込んだ場合(平成23年から5年毎で10%短縮化すると設定した。ただし、平成43年以降は8.5日とした。)には、1日当たりの患者数は減少傾向となり、病床利用率を77%と設定し病床数を求めると平成43年で約2,165床となります。

また、療養病床の対象患者数(介護施設の入所者数を含む。)では、1日当たりの患者数は増加傾向となり、病床利用率を92%と設定し病床数を求めると、平成43年には7,342床となり、平成23年の約1.5倍となります。



※ 将来人口は練馬区地域医療課推計値  
 ※ 平成23年の現状病床数は東京都「医療機関名簿」(平成23年6月1日現在)による。



※ 将来人口は練馬区地域医療課推計値  
 ※ 平成23年の現状病床数は、療養病床547床、介護老人保健施設および介護老人福祉施設の定員数2,105人で、東京都「医療機関名簿」(平成23年6月1日現在)および東京都福祉保健局 ホームページ 入所定員数 (平成23年2月現在)による。